

Amir Tsarfati 氏 中東情勢アップデート 2018年 6月 4日公開

ゴラン高原より、ヤングアダルトツアー2018の皆さんと

(日本時間 6月4日 16:00～＝イスラエル時間 6月4日 10:00～)

.....

世界はここが、紛争地帯だと思い込んでいる。

だから、皆来ない。

君たちの中で、周りから「クレイジーだ」と言われた人はどれぐらいいる？

ほら？

彼らは君たちを、「精神病院かどこかに送ろうか」とか何とか言っていたでしょ？

ここがどれだけ平穏か、皆、理解しないんだよ。

これは、人がここに来て、これを見て、これを経験する祝福を奪おうとする、敵の仕業だと思うから、悲しいね。

私が、君たちを危険な場所へ連れて行くと思うかい？

もちろん、連れて行かないよ。

私は、自分の娘を連れて来たんだよ。

もしここが危険なら、私は連れて来なかった。

でも、ここが危険ではないばかりではなく、訪れる価値のある場所だってことを、君たちには理解しておいてほしい。

今日のニュースを理解するのに役立つのはもちろんのこと、それ以上に、このエリアの将来を理解するためには、とても重要なんだよ。

私が心底信じているのは、

今、私たちが目にしているこの場所が、預言者エゼキエルが 38 章で告げている、イスラエルを攻撃する連合国が、イスラエルへ攻め込む時の入り口になる、ということ。

だから、今私たちが目にしているのを名付けて、

「嵐の前の静けさ」

これは本当だよ。

また、静けさにも目的があると私は信じているし、嵐は来る。

部屋に戻ったら、エゼキエル 38 章を読んでごらん。

敵が北から攻めてくる様子が、

「嵐のように」「地を覆う雲のようになる」と書かれているから (エゼキエル 38:9 参照)。

OK、みんな。

フェイスブックとユーチューブのライブがもう始まっているよ。

これから 3～4 分後に、正式にアップデートを始めるけど、その前に、お家の人たちに一言言おうか？

3つ数えるよ。1-2-3!

(全員) ハロー!

オッケー、オッケー。ちょっと練習しよう。(笑)

「ハロー」じゃなくて、叫ばないと。

「シャローム」で行こう。いいね？1-2-3！

(全員) シャローム！

皆さんに聞こえたはずだ。

「シャローム」とは「平和」という意味で、私たちは今、感じているよね？

まさに私たちは、今、ここで平安を感じています。

ここから 1.5 マイル (2.4 km) 離れた場所では、文字通り、公式な紛争地帯ですが。

紛争地帯というのは、シリア政権とシリアの反政府勢力との間の紛争、それから他の要因が、それぞれ自分たちの目的をもってシリアに入っています。私たちの背後、ほんの 1.5 マイルほど離れた所はクネイトラという町で、そこは現在、まさに世界の注目が集まっている場所です。



ゴラン高原とクネイトラの位置関係地図

なぜかと言えば、あの地域を反政府軍から奪うために、シリア軍が大規模かつ攻撃的な軍隊を備えているからです。そのことを、イスラエルは非常に危惧しています。それについても後ほどお話しますが、ちょうど 10 時になったら知らせてください。

あと 2 分。

イスラエルはロシアに対応し、間接的にイランに対応して、明確に伝えました。

「ここは私たちの国境だ。この場所でのイラン駐留は一切認めない。」

それについても数分後にお話します。

6 月 4 日。

では準備はいいかな？それでは始めよう。

シャローム！アミール・ツアルファティです。

ベントル山の頂上からライブを行なっています。

ここにはイスラエル軍の塹壕があって、以前はイスラエル兵士が配置されていましたが、現在は観光地になっています。

私と一緒にいるのは、恐らくこの国で始めて見る最も独特な団体でしょう。異なる 14 ヶ国以上、異なる 6 つの大陸からやって来た若者たちです。彼らから、皆さんにご挨拶があります。

1-2-3!

(全員) シャローム!

シャロームと言っています。後ほど彼らがどこの国から来ているのかお話ししますが、南はオーストラリア、ニュージーランドからもはるばる来てくれました。

ということで、皆さんシャローム!

今回初めて、フェイスブックとユーチューブのライブを、ここゴラン高原より同時中継しています。現在、このエリアは物凄い事が起こっています。

これから、今起こっていることに関して、皆さん全員と、もちろん君たちにもアップデートしていきます。

まず、はじめに、昨夜の事から。

昨日、私がツイッターを開くと、何が目に飛び込んできたと思いますか?

イランの最高指導者が、昨夜ツイッターに次のような投稿をしていました。



ハメネイ大統領のツイッター

「イスラエルに敵対する我々のスタンスは、常に我々が取っているスタンスと変わらない。イスラエルは、西アジア地域にとって悪性の癌腫瘍であり、取り除き、根絶されなければならない。それは可能であり、それは行われる。」

これが彼の発言です。彼は過去にもこれを言っていますし、今後もまたこれを言うでしょう。私たちは、どんな人間を相手にしているのかを理解しなければなりません。

イスラエルは、イランとの協議に反対ですが、

イスラエルは、約束を守ることのできる国との協議には反対しません。

その言葉の裏に何があるのか、その欺きを、我々ははっきりと理解しています。

中東で大きな力を持つ者が、公にイスラエルの滅亡と根絶を叫んでいるのです。

しかし、世は彼らを非難しません。

このツイートこそ、世界中からの批判を浴びるべきものですが、これに関して、誰かが批判する声を、どなたか聞きましたか?

一切ありません！

国連の偽善は想像を絶します！

仮に、イスラエルの大統領が、何であれ、アラブ諸国のだれに対してであれ、このような事を言えば、国際社会がどう反応するか、皆さん、想像出来るでしょう。

即座に、国連安保理会議が開かれ、

即座に、世界中から非難されます。

これが、我々の直面している事です。それから興味深い事に、数日前に NATO の事務総長が次のように宣言しています。

「イスラエルがイランから攻撃された時には、NATO はイスラエルを助けない。」

NATO とは、北大西洋条約機構 (North Atlantic Treaty Organization) で、元々はカナダとアメリカで始まり、その後西ヨーロッパ諸国が加わりました。歴史的には西側、つまり NATO と鉄のカーテンがまだあった時代、ソ連率いる当時のポーランドと東ヨーロッパのワルシャワ連盟との間に、激しい敵意があったと言われています。もちろん、もはや東ヨーロッパはソ連の手にはありませんし、ソ連自体がもう存在せず、今はロシアです。つまり、今はロシアが NATO に敵対しています。ロシア vs 西側諸国です。そして、ヨーロッパ界がほんの二日前に宣言したのです。もし、反対側がイスラエルを攻撃しても、彼らは我々を助けには来ません。

私がこれを言っている理由は、実にシンプルです。

私は物事を“センセーショナルなニュース報道”のようには伝えたくはありません。全ては、聖書に書いてあることと、点と点を結ぶのが目的です。

聖書にはエゼキエル 36 章に、イスラエルが戻って来るのに備えて、何年もの間死んでいた地が息を吹き返す、とあります。

それから 37 章では、次に神が、ほぼ根絶されかけているユダヤ人たちを彼らの地に戻す、と告げています。ですから、主は、まず地を回復され、それから人々を戻されます。

そして 38 章で、私たちは安全で、安心で、非常に繁栄している国として紹介されています。その時、我々の敵たちは繁栄していません。そして近い将来、彼らがイスラエルに攻めこむ目的の全ては、ものを分捕り、かすめ奪い、略奪するためです。

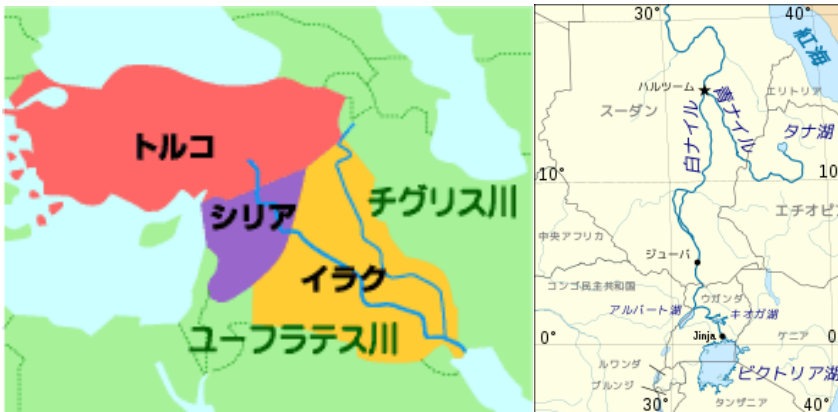
これが今、我々のいる時点です。

シリア国内や、我々周辺の非常に多くの国々では、人々が戦い、互いに殺し合っている間、私たちだけはここで平静であり、非常に様々な側面で物凄く繁栄しています。

昨夜、私は非常に興味深い記事を読みました。

私たちがこうして話している間にも、古代中近東の三つの大河が干上がっているというのです。

チグリス、ユーフラテス、それからナイル川。この三つ全てが、ほぼ完全に干上がっていると。皆さんがこれを知っているかどうかは分かりませんが、イラクのいくつかの地域では、チグリス川を歩いて渡れます。まるで、水の上を歩いているような感覚です。



チグリス川、ユーフラテス川の位置（左）とナイル川の位置（右）



干上がったユーフラテス川（イラク・Sayyed Dakhi II 村）

カイロに行けば、ナイル川の水位がどれほど低いか分かります。現在、史上初めて、ナイル川のど真ん中から、島が盛り上がり来ているのです。また、同じことがユーフラテス川でも起こっています。私たちは、ガスや石油が関わる内戦よりも、はるかに大きな事を目にしているのです。水さえも、今の状況を支配しています。実際、8年近く前に始まったシリア内戦は、シリア南部のダルアーという郊外の町で始まりました。ダルアーは、何千人もの村民が、自分たちの村が完全に干上がってしまったために移民してきた町です。彼らは、自分たちの畑に水を撒くことが出来なくなったため、仕事もお金も無くなって、はるばるこの町に引っ越してきました。だからこの町は、時限爆弾のようでした。仕事も何もなくて、人々の不満が募っていたため、アラブの春が火を点けて、それが拡大するのは時間の問題でした。人々が肉体的に渴いていただけでなく、土地自体が完全に死んでいましたから。10年近い干ばつが、全地域で続いています。だから内戦の裏側には、こういった大河の消滅さえも大きな理由にあることが分かるでしょう。政権は互いに殺し合い、異なる民族間で殺し合うことに忙しくて、自分たちの民の面倒を見ることを忘れていているのです。水に関しては最も不可欠、基本的な問題です。

イスラエルは、この70年の間に気付きました。我々も何とかしなければ、全く同じ状態になる、と。

皆さん、こんにちは、下水を浄化している施設が国内に200以上存在します。その浄化された水を用いて、農業用水にするためです。



イスラエルの下水処理施設

下水の約 75%が浄化され、再利用されています。このような水を、これほどの高確率で再利用している国は、地球上で他にほどこも存在しません。それだけではなく、イスラエルはこれまでガリラヤ湖から水を汲み上げていましたが、今は、水をガリラヤ湖に注いでいるのです。どういうことかということ、我々はガリラヤ湖を頼ってはいけないうことに気付いたのです。干上がりそうだからです。みんなも、昨日見ましたね？

昨日、皆がしたのは、カヌーでもなく、カヤックでもなく、あれは何？浮き輪？ゴムボート？みんな、ヨルダン川の川底にぶち当たったでしょう？何回も！

あれは干ばつのためです。

ここでは、干ばつが 5 年近く続いていますし、他の中東の多くの場所では、10 年近くです。そこで、周りで起こっていることを見てすぐに、我々は行動に出たのです。

イスラエルは、自国民に水を提供する事においては、かなりの成功をおさめています。しかし、我々の周辺のイスラム諸国は、ここに水があるからといって、誰一人としてここに住むために、イスラエルに群がりません。彼らにとって、ここは最後の手段です。そこで彼らはどこへ行って、どこに群がりますか？

ヨーロッパ！その通り！

それがまさに現在、世界で起こっている事です。

前代未聞の移民の波、いくらかはアフリカから、多くが中東から、皆それぞれの目的がありますが、だいたいは経済的な理由です。つまりヨーロッパは、現在危機に直面しています。そこで我々は、何を目に見ているのかということ、

昨夜スロヴェニアで選挙がありました。

イタリアでも、ドイツでも、また他の多くの国々でも選挙がありました。

反移民の極右政党が、どんどん、どんどん強くなってきているのです。

ヨーロッパは、自身の問題から救い出してくれる救世主を探し求めるところまで来ているのです。

ところで、間違っはいけませんよ？

ヨーロッパが直面している問題は、移民だけではありません。ヨーロッパには、皆の想像をはるかに超える負債があって、彼らは今、負債をリサイクルしているのです。

そしてあの 8 年の間、彼らがバラク・オバマを愛した理由の 1 つは、彼が文字通り、アメリカの全てのビジネスをヨーロッパに与えたからです。あの 8 年間、ヨーロッパの会社は大喜びでした。

ですから、「アメリカを再び偉大に！」というスローガンは、他でもなく、全てのビジネスをアメリカに戻そう、ということです。

鉄、石油、ガス、その他。

現在アメリカの失業率は、過去 20 年以上の中で、ほぼ最低です。

1年半の間に、これほどのスピード・力で、物事が覆されるのは前代未聞なのです。

ということで、私たちは物凄い事を目にしているのです。

ここで繁栄している国。

私たちの経済は、今の時点で最盛期を迎えていて、私たちは水だけではなく、様々な分野で優れているのです。

ところで、皆が知っているかどうか分かりませんが、私たちは空気中からも水を採取していますよ。我々のところにはその技術があって、皆がくしゃみをすれば、我々が飲むんです！



大型の空気—水変換装置（左）と家庭用空気—水変換装置（右）

それから、我々のところの牛は、世界で最高の生産率です。オランダから来ている人はどこですか？オランダの牛よりも優れています。アメリカの牛よりも、ドイツの牛よりも。イスラエルの牛の生産量は、世界最高です。



乳生産コントロールシステム

我々のサイバーセキュリティは最先端、防衛システムも最先端で、世界中の軍隊が買っています。技術、科学、薬、非常に様々な分野で、です。それら全てが、毎日毎日我々を滅ぼす術を捜し、企んでいる敵に囲まれている中で行われているのです。

もし、これが神の御手でなければ、神の御手がどういうものなのか、私には分かりません。そしてこれがまさに、私が何年も言い続けている事です。この国を訪れるということは、常識や状況から至ることとは真逆のものを目にする事です。

あらゆる反対、あらゆる常識や状況がもたらすはずの全ての事を覆して、この国は、絶望的な近隣諸国のただ中であって、繁栄しています。

想像してみてください。

イランは現在、制裁が再び課されたために、ビジネスの世界で何千億ドルと失っています。想像してください。

ヨーロッパの全企業が、契約の全てを解除しているのです。

彼らは、何億ドルという資金をイランに懸けたのです。それを彼らは今、失いました。

ヨーロッパ諸国は、それら全てを自分たちの経済のために懸けたのです。

この国が非常に成功している傍らで、彼らは流血しているのが、みんなにも分かるでしょう？

ロシアは現在、血を流しています。

トルコのリラは、現在過去最低。一年以内に、価値が半分以上に下がりました。

このように、イラン、トルコ、ロシアが流血している中で、イスラエルは繁栄しているのです。

我々はガスを発見し、石油を発見し、先ほどお伝えしたような事柄があります。水でさえ、水を取り上げると言って、我々を脅すものは誰もいません。我々は地中海から水を汲んでいますから。我々には常に水があります。それは、脱塩する施設を建設するだけの知恵が、我々にはあったからです。



海水脱塩システムプラント

私の言いたいことは明確です。

前にも言いましたが、もう一度言います。

これは、嵐の前の静けさであり、嵐が来るために必要なのです。

預言者エゼキエルが、嵐について実に鮮明に描写しています。

敵は、北の果てからはるばるやって来て、嵐のように攻め込み、この地を覆う黒雲のようになる、と言います（書記注：エゼキエル 38 章 9 節参照。）。

では、なぜ私はこれを伝えているのでしょうか？

それは数分前にお話したばかりですが、北大西洋条約機構という形の西側諸国がつい先日、

「イスラエルが攻撃されても、我々はイスラエルを助けには行かない」

と言いました。これは物凄い事です。私は、ワクワクしています。

恐らく皆さんは言うでしょう。

「何で自分たちが滅ぼされそうで、誰も助けに来てくれない事に、そうワクワクするんだ!？」

さて、誰が助けてくれるでしょう？

その通り！

エゼキエル 38 章で、彼が行く、と主が言われます。

誰も我々を助けないように、彼がされるその理由は、それによって彼が栄光と誉れをお受けになるためです。

ギデオンの話を覚えていますか？（書記注：士師記7章参照。）
戦いのために、何人の人が姿を現したか覚えていますか？
敵の数は20万人以上とか何かでしょうか？
そこに、32,000人が姿を見せても、すでに人数で負けています。
それなのに主は、
「こんなに要らない。家に帰らせろ」
と言われました。
結局、主が残されたのは何人でしたか？
300人。
それに対して敵は、20万人近くです。
もしもーし？
しかもこの300人は、さっぱり分かっていませんでした。
彼らは戦い方さえ知らなかったのです。



ニコラ・プッサン画「ミディアン人に対するギデオンの戦い」

神がそれを望まれました。

そうすれば、栄光と誉れが主のものになるからです。

私たちが、我々の歴史から学ぶべきものが一つあるとすれば、また、私たちは学ばなければなりません。

私たちが今いる所（ベントル山）は、塹壕です。

君たちの後ろにあるのは溝、あちらには国連の前哨地。

我々の背後にはヘルモン山、シリアは停戦ラインの向こう側、畑は全てイスラエルのものです。



シリアは目と鼻の先

我々が今いる所は、私にとっては、神の真実さに対して、栄光を自分たちのものにしようとした我々の最大の象徴だと思います。

私たちがゴラン高原を占領した六日間戦争の時代、私たちは自分たちが負け知らず、過去最強だと思っていたのです。イスラエルの高官たちは、通りをクジャクのように歩きました。彼らはまるでロックスターのようで、皆が勝利を彼らの手柄として讃えたのです。そして彼らも喜んでそれを受け取り、その毒を飲みました。それが原因で、1973年10月、我々は不意打ち攻撃を受けることになります。

今日は2018年の6月4日ですね。

6月4日は非常に面白い日で、六日間戦争が始まる前日です。

あれが始まったのは6月5日でした。

そして明日6月5日、アラブ人たちは「大惨事の日」として記念して、彼らはこれを「an-Nacsa」と呼びます。ですからまた、ガザ国境やそこらで暴動が起こると思います。

ただ、皆さんに理解しておいてほしいのは、彼らにとって大惨事の日は2日あります。

- ① 1948年のイスラエルの独立日。
- ② 1967年、我々がゴラン高原と西岸そのものを取り戻した日です。

ここにいる皆の話をする前に、最後にもう一つ、ゴラン高原の頂上から皆さんにお伝えします。

ここは南部ガリラヤ湖のフラ溪谷の上にそびえ立つ、面積1,300 km²の地域で、世はこの地域を「占領地域」と呼びます。

世は、イスラエルがシリアからここを奪った、と言います。

世は、ここはイスラエルのものであるとは承認しない、と言います。

ところで、念のために言っておきますと、近々アメリカは

「ゴラン高原はイスラエルの領土である」

と承認します。皆さんがご存知かどうかは分かりませんが、もう既にアメリカ合衆国の議会では、それを承認するための議案が提出されています。その理由を説明しましょう。

ご覧の通り、現在は中東全体が、1918年と1920年の国際合意の産物です。

1918年、パリで行われた和平首脳会議で、将来について話し合われました。

そして1920年、サンレモと呼ばれるイタリアの小さな町で、連盟国が承認したのは、イギリス政府が中東のこの地域全体を国土として整える事。

誰の国土でしょう？

ユダヤ人です。

1917年に出されたバルフォア宣言が、ここで国際的承認を得たのです。

では、何故これが重要なのでしょうか？

それは、これが唯一の国際合意だからです。

私たちが、それを知っています。

それはたった2国間ではなく、多国間でこの場所の将来について話し合われたのです。そしてなんと、1,300 km²のゴランのうち、ほぼ1,200 km²がユダヤ人の国土領域であるとされました。

それなら何故、1948年にイスラエルが誕生した時、それが与えられていなかったのか？と皆さんは思うでしょう。

さて、イギリスは権限を与えられました。

「もちろん、我々もユダヤ人のことは好きだよ？

そして、彼らのための場所を整える権限も与えられている。でも…

いいかい？我々は、イラクのモスルの地域に石油を発見したんだ。

だから我々はあの地域をもらって、それと引き換えにこの場所をフランスに与えることにしよう。」

そしてもちろんフランスが、後にシリアに与えました。

つまり、あの1923年にイギリスとフランスの間で交わされた合意は、二国間だけのものです。しかしこの場所の将来に関して署名された唯一の合意書は、1920年の国際合意、国際法であって——私は、あれは法律だと信じていますが、——それによれば、ゴラン高原も我々の領土に含まれているのです。

つまり要点は、そろそろイスラエルは、世界に対して言わなければなりません。

「我々は、あなたがた全員が調印した法と合意を基に、ゴラン高原をイスラエルの領土として要求する。あなたがたが机の下や、隠れて取り交わしたその他の事は合法ではない。合法なのは、あなたがたが“国連”、合法国家として合意したものだ。」

私たちはこれを言わなければならないのです。

私が心底信じているのは、イスラエルは、イスラエルの法律を課すだけでなく、ここを我々の領土として、世界的な承認を求めなければなりません。

さらに私が思うに、このアメリカ議会の動きによってエンジンがかかり、シリアが

「もういい加減にしろ！」

と言うかも知れません。そしてもし、シリアが、

「たとえ負け戦だと分かっているけど、我々はイスラエルと戦争する！」

「ゴラン高原が彼らのものだと、世界が承認することは許さない！」

と言うなら、それがエゼキエル戦争開始への点火材になるかも知れません。

聖書には、ダマスカスが完全に滅ぼされる、と書かれています。

8年前までは、世界中のほとんどの人が、ダマスカスが何であり、どこにあるのかさえも知りませんでした。

こんにち、それがどこにあるのかは、誰もが知っています。

こんにち、そこで何が起きているのか、誰もが知っています。

ダマスカスの3分の2が、すでに廃墟になっています。

ダマスカスの中で唯一、まだ立っている部分は、宮殿のある場所、未だに政権が支配している中心エリアです。

皆さんに知っておいてほしいのは、シリア政権は首都内の宮殿周辺にある小さな居住空間を、最近も何千人という単位で大虐殺しました。

そうして彼ら自身が、自分の町の3分の2を破壊したのです。

あとはただ、政権を取り除けば、残りの3分の1が崩壊します。

そして、預言者イザヤが言ったダマスカスの廃墟が現実のものとなるために必要なものとは何だろうかと考えると、私を知る限りでは、国や町を廃墟に出来る武器は二種類あります。誰か、分かりますか？

- ① 核兵器か、
- ② 少なくとも化学生物兵器

のどちらかです。そしてこれが興味深い事に、ダマスカスとは、中東全域で最大の化学生物兵器の武器庫の上にある町なのです。

サダム・フセイン（1937～2006）が湾岸戦争（書記注：1990年8月2日のイラクによるクウェート侵攻をきっかけに、国際連合が多国籍軍（連合軍）の派遣を決定し、1991年1月17日にイラクを空爆して始まった戦争～1991年2月28日に終結）の前日、イラクから全てを運び出した時、それらを当時のダマスカスに運び込んだのです。



サダム・フセイン（左）と、湾岸戦争のきっかけとなった1990年8月のクウェート侵攻（右）

ですからこの町が崩壊すれば、全てが直ちに制御不可能に陥ります。

大混乱かどうかは、私には分かりませんが、

私たちには終わりが分かっています。

私たちは、誰が勝つのか知っています。

信仰の利点は、私たちが書の全体を知っている事です。また神は、信者たちが恐れや不安の中で生きることを望んでおられません。

私たちは、物語の結末を知っているのです。

誰が勝つのか、どのようにして勝つのか、私たちは知っています。

今朝、私が投稿したのは、C. S ルイスの言葉だったと思いますが——

「神とともに生きる人生は…」



C. S ルイス

ごめんなさい（笑）。ちょっと確認させてください。ありました。

「神と共に生きる人生とは、困難の免除ではなく、困難の中に平安がある。」

これが、神とともに生きるということです。分かりますか？

要は、今起こっているあらゆる事から、私たちの平安が軍事力ではなく、政府でもなく、兵士たちでもないということ、私たちは覚えておかなければなりません。

私たちの平安は、主にあります。天と地を創造された方。

それからまた、私たちの平安は、神ご自身の中にある私たちの約束です。

では、お楽しみに入りましょう。

まずあちらの小さいドローンに挨拶しましょう！

(全員) ハーイ！

では、こちらのマイクをもらいます。

皆さん、今私たちは、これまでにイスラエルに存在した他のどんな集団とも異なる、素晴らしい若者たちとここにいます。今では私もみんなのことが分かって来ましたが、異なる 14 ヶ国から集まってくれました。

今日はイスラエル代表もいますが、ツアーの中には南アフリカ人もいます。

南アフリカの人は何人いますか？

1人、2人、もう1人？3人。南アフリカから3人。

それから、トーゴから1人。でも彼女は今、フランスに住んでいますね？

もう1人のフランス人は今、イタリア在住。あ、そこにいますね。

それから、イギリスからの人？

他のヨーロッパの国から来ている人はいますか？いませんか？

おお！オランダ！いましたね。

では、カナダから来ている人？カナダは7人。

それでは、アメリカ？ちなみに、これを始めた当初はほぼ全員がアメリカからでした。今は縮小しています。というか、彼らが縮小しているのではなく、他が増えているのです。

では南に行って、メキシコの人？いましたね、メキシコ！

では南下してブラジル？ブラジル！

では、パラグアイは？パラグアイからは2人。

では、ずっと下がって、オーストラリア？こことあちらに2人。

それから、ニュージーランドからは、こちら。

さらにフィリピンから3人。

そして日本！日本からは女の子が2人来ていますが、今日はあちらに残っていて、

もう1人、日本人のハーフ…じゃなくて、100%日本人だね？でも彼女はアメリカ在住。ちなみに、私の動画を全部日本語に翻訳しているのは、彼女のお母さんです！

それから他には…もう、全員呼んだかな？

あと、私の娘がそこにいて、イスラエル人です！

娘がここにいて良かったと思うことの一つは、私が皆さんのお子さんたちを、紛争地帯に連れて来ることを心配しておられる親御さんたち、私は自分の子どももその“紛争地帯”に連れて来ました。ここがどれほど安全で穏やかであるか、お分かり頂けるでしょうか？

では、Kenyattaに聞いてみたいと思います。

ここにいて、何か脅威を感じてる？

——「いいえ。とても安全に感じていて、私たちはすごく楽しんでいます。周りには旅行客もたくさんいますし、そこには兵士たちもいますから。すごく安全だと感じています。」

そうだね。国連のことを言っていないよね？（笑）

——「違います！」

君はどうか？

——「僕もすごく安全だと感じています。イスラエル人でも、銃を持っている人はそんなに見かけないし。」
パラグアイでも、これぐらい安全だと感じる？

——「いいえ。こっちの方がずっと安全だと感じます。」

こっちの方が安全だと感じてるの？すごいね！

ブラジルはどう？君はリオデジャネイロからだったね？

——「はい。ここはブラジルより安全です。」

ブラジルよりも、こっちの方が安全なんだ？

——「はい。」

びっくりだね。私も、リオについてはいろいろな話を聞いてるよ。

君はどうか？

——「カナダは超安全です！」

カナダは超安全？

——「はい。でもここも、カナダと同じぐらい安全です。」

君の首相（書記注：ジャスティン・トルドー）に何か言いたいことはある？（笑）

——「ないない！ありません！」

あの人はよく分からないよね。

興味深いのが、君はポルトガルのハーフなんだね？

——「そうです。」

君のお父さんがポルトガル人？

——「はい。」

そしてお母さんがアメリカ人？

——「はい。」

だからポルトガルとアメリカを行ったり来たりしてるんだね？

——「はいそうです。」

イスラエルはどう思う？

——「ここへの入国は、他のどの国よりも厳しかったと思います。それでも安全だと思いました。」

ワーオ、それはすごいね。

君はどう？南アフリカ出身で、今はニュージーランドに住んでるんだったね？

——「『何の戦争？』としか言えません。戦争中のように感じません。」

何の戦争？だよ？

——「はい。何の戦争！？」

ここはメキシコと同じくらい安全かな？

——「一般的に、メキシコはあまり安全ではありませんが、僕の住んでる所は結構安全で」

それは私が証言するよ。メリダの町は素晴らしいところだね。

——「でもここは、僕の住んでる所よりも安全で、ものすごく平穏です。」

お母さんに何て言いたい？

——「ハイ！」

カヨ、娘さんは安全だよ！絶対今、これを見てるよね？（笑）

さて、イスラエルの第一印象はどんなだった？

——「テルアビブに行った時は、カリフォルニアによく似ていると思いました。でも、面白いところがたくさんありますね。」

最大の危険は、食べ過ぎだと思わない？（笑）

——「ええ。確かに超美味しいです！」

食べ物が超美味しい。

君は僕らの南アフリカ人ヒッピー。冗談冗談（笑）。君がどこでも裸足で歩いているのを見てると楽しくなるよ。

——「僕は裸足で歩くのが好きなんです。」

そうなの？ここに来て、このツアーに参加したことで、クリスチャンとしての君の信仰にプラスになっていると思う？

——「確実にそうです。昨日はカペナウムを山に向かって歩きましたが、そこで教えてもらいながら聖書を開いてみたら、パリサイ人たちがイエス様をその崖から落とそうとしたことが書かれてあって、まさにその場所に行って、聖書が見事にイスラエルと繋がっていることに驚きました。まるで、その当時に自分がいるようで、イエス様がそこを歩いたんだなあ！と思いました。本当に来て良かったです。ここはとても安全だと思います。」

良かった！

君は、イスラエルに来ることを皆に薦めたい？それとも、人による？

——「絶対、皆に来てほしいと思います。全てのものに、聖書が生きているのが見えますから。それに、周りの人たちがとても優しいです。私が出会った、ここに住んでる人たちは皆、すごく気さくで、自分の家にいるみたいな気持ちになりました。」

君は、これが初めてじゃないよね？

——「はい。二回目です。」

彼の家族は、私と家族ぐるみのお付き合いで、彼のお母さんはフィリピンで私のアシスタントをしてくれています。じゃあ、1回目と2回目とではどう違う？

——「今回の方がずっと楽しいです。いろんな文化の人たちと一緒に、すごく刺激になります。特に、大人の人たちと一緒にだった1回目と比べると…」

その上、家族も一緒だったもんね。

——「ええ。だから今回はものすごく楽しいです！」

お母さんに何か言いたいことある？今、きっとこれを見てると思うよ。

——「安全だよ！それに彼が、しっかりと教えてくれてるんだ。」

では君はどうか？君はオーストラリアからだったね？オーストラリアのどこから？ここに来るのにすごく時間がかかったよね？

——「はい。飛行機で20時間かかりました。」

飛行機で20時間！来る価値はあった？

——「絶対あります！」

また来たい？

——「いつでも来たいです！」

家に帰った後、このツアーについて皆に何と伝えたい？

——「どれだけ素晴らしいか、絶対に来る価値があることを伝えます。」

今、誰かが君の後ろで脅して、こんなことを言わせてるの？（笑）

——「いいえ！絶対にそれはありません！」

後ろで銃を突き付けてるとか？冗談です！

面白いことに、ツアーが始まってまだ3日目だけど、もうすでに、聖書が生き生き見えて来てるよね？これからさらにどんどん見えて来るよ。

皆、ツアーの終わりには、どのツアーでもそうだけど、きっと最後には泣いてしまうよ。

一つは、ここを去って、家族の元に帰らないといけないから。親のところにね。

二つ目は、このようなツアーで生まれる友情というのは、本当に素晴らしいものがあるから。

ディナにもちょっと聞いてみよう。ディナは、元々はアフリカのトーゴ出身だけど、フランスのツールーズから来ていて、彼女は、私がフランスで週末を通して聖書預言を教えていた時に、通訳をしてくれたんです。ディナ、このツアーの第一印象はどうだった？

——「本当に素晴らしくて、ただすごい！すごく感動しています。」

感動してる？

——「ええ。聖書が生き生きと見えて来て。それに食べ物がすごく美味しいです！」

食べ物が美味しい！良かった！

フィリピンとイスラエルを比べて、どう？

——「こっちの方がずっと安全だと感じます。」

ここの方が安全だと感じるの？

君たちには素晴らしい大統領が与えられたけどね。ドゥテルテ大統領は、フィリピンをこれまでになかったほど安全にしてくれたよね。

——「ええ。それでもまだ、こっちの方が安全だと感じます。」

こっちの方が安全だと感じる？

——「自分の学校よりも、ここの方が安全だと感じます。」

素晴らしいね。

オランダ！オランダには、イスラエルを愛する人がたくさんいるかな？

——「え〜と、いろんな話を聞いてると思うけど、いろんなことが起こってますから。彼らはあっちにいるのを恐れています。」

君は、君たちのチーズよりこっちのチーズの方が好き？（笑）

——「え〜と…」

そう言う時はどういうか知ってる？そういう時はこう言うんだよ。

「僕は、君のチーズじゃなくて、君のジーザスが好きだ！」（笑）

——「もちろん！僕らはイエスを愛してるよ！」

その調子だ！

皆さんに、ただご覧いただきたかったのは、ここが安全、安心であるだけでなく、世界中の人たちに投資して、そのままの聖書を教えること、それから実際に、世の中で何が起きているのかを見せることの重要性を理解していただければと思います。

なぜなら、メディアは、——私がメディアのことを何と呼んでるか知ってる？

ミデヤン人！（笑）

私は、彼らを公共の敵だと思っています。メディアは、君たちの思考を支配したい人たちのチャンネルで、彼らは君たちに、あまりにも多くの嘘や欺きを吹き込んでいます。

ところで、君たちも間違えることはあるし、それは構わない。ただ、人を欺くというのは、人を「欺く者」とならしめるのは、真実の知識です。それが真実ではないと知っていながら、それが起こった、と人に伝えるなら、その時君は「欺く者」になる。

私が心から信じているのは、サタンの名前の一つは「欺く者」であり、それから聖書は、サタンのことを「空中の権威を持つ支配者」（エペソ 2:2）であると告げています。

世に嘘を吹き込むために、電波が色々な形で使われていると私は思っています。しかも非常に残念なことに、人々がそれを信じています。

ここにいる君たちの中で、楽しんでいる人はどれぐらいいる？

（全員）イエーイ！

そちら側でこれをご覧になっている皆さんには、ぜひ娘さんや息子さんをこちらに送り込むことを検討してみてください。そう言えば、この中に兄弟姉妹がいたよね？手を上げてくれる？ここに姉妹が2人、ここに姉妹が2人、それからこっちに兄弟が2人、それから今回、若いご夫婦もいるのです。どこにいる？奥さんはここ、——もうすでに、2人に分裂をもたらしてしまいました（笑）。冗談です。

つまり、私が言いたいことは実にシンプルです。このツアーも一つですが、お家におられる皆さん、お子さんに投資を考えておられるなら、他の何でもなく、私たちの若者ツアーにお子さんを送って、彼らに投資してください。私は、彼らが主の事で心を燃やして家に帰ると信じています。そして私は、これが彼ら全員にとって人生を変える経験になる、と心底思っています。

私が彼らに望むのは、ただ

「Behold Israel/イスラエルを見よ」

それだけです。イスラエルを、そのまま正しく見て欲しい。

私たちは、彼らを洗脳しようとしません。

私たちは、彼らが自分の目で確かめられるように、現地に連れて行きます。

私たちは、彼らを教室に閉じ込めて、詰め込むようなことはしません。

私たちは、彼らを外に連れ出します。

それから楽しい事もするよね？

（全員）イエース！

ですから、皆さんにお伝えしておきます。

次世代に投資するには、これは素晴らしい方法です。彼らは、物凄く敵の標的にされているからです。このメッセージを、お祈りで締めくくりますが、同時に、私たち全員にチャレンジしたいと思います。聖書には、イエスがエマオに下っていた2人の弟子たちに次のように言われたと書かれています。

25 …「ああ、愚かな人たち。預言者たちの言ったすべてを信じない、心の鈍い人たち。」

(ルカ 24:25)

自分自身を“クリスチャン”と呼ぶ人たちの非常に多くが、——彼らは聖書を読みはします。彼らは教会にも行っていると思います。それから、彼らは聞いてもいると思います——しかし問題は、彼らは信じていないのです。彼らはこういったことを信じません。しかし、私たちのいるこの地が、「それは真実だ！」と叫んでいます。

「それがここで起こっているんだ！」

聖書の中に書かれていることが全て、本当に物理的に起こっているのです。

これは、ただ霊的な事だけではありません。

文字通りに起こっているのです。

そこで、私たちは皆、覚えておかなければなりません。

信じるためには、…私たちには、信仰がなければ、実際何も出来ません。

これはイエスが、マルタに言われたことの一つです。

26 「…このことを信じますか？」

(ヨハネ 11:26b)

25 …「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。

26 また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。

それからイエスは聞かれました。

このことを信じますか。」

(ヨハネ 11:25~26)

ですから、私たち全員にチャレンジします。

ただ、読むだけでなく、

ただ、教会に行くだけでなく、

または、私の出生証明書には、私がクリスチャンだと書いてある、とか、ユダヤ教徒だとか何とかいうのではなく、信じてください。

信じるのです。

神は、“信じる者”を求めておられます。私はよく、“クリスチャン”という言葉を使わず、“信者”という言葉を使うようにしています。

君たちも、「私たちは信者です」と言えなければならないよ？

それからもう一つ、皆さんにチャレンジしたいのは、それを実践しましょう。

ただ言葉だけでなく、行動によって、君たちが見たものを世界に伝えてほしい。

城壁の見張り人になって、それから、真理の使節になってください。

では、祈りましょう。

お父様、今日、あなたに感謝します。

私たちはゴラン高原に立っています。ISIS や他の反乱軍の組織からは1マイル、ダマスカスからは約40マイルの距離です。

私たちはそこにいて、ただ楽しんでます。

それはあなたが、あなたの民イスラエル人への約束に対して、真実であられるためです。

あなたが、この国の上に差し出しておられる守りの御手、必要を満たす御手を、私たちは見えています。私たちはそれを見て、ただ驚くばかりです。

私たちはあなたの御言葉に、あなたの約束に、そしてあなたがあなたであられることに感謝します。

この素晴らしい若者たちを、この地に送ってくださり感謝します。

「Behold Israel/見よ、イスラエルを」イスラエルを見るためにです。

お父様。彼らのうちに良い働きを始められたあなたが、それを完成させてくださることを、私は強く信じています。

今日、ゴラン高原の頂上より、あなたに感謝し、あなたを祝福します。

この全てを、他にはない美しい御名、素晴らしい私たちのメシア、イスラエルの王、世を贖う方、全世界への啓示の光、私たちの救い、イエシュアの御名によってお祈りします。

さあ、皆で

(全員) **アーメン!**

アーメン! ありがとうございます。

みんな、シャロームと言おう!

(全員) シャローム!

God bless you! シャローム! またお会いしましょう!

楽しかった?

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>

【写真出典一覧】

ゴラン高原とクネイトラの位置関係地図 : Google Map “Quneitra-Israel”

ハメネイ大統領のツイッター : twitter 「Khamenei. jr」

チグリス川、ユーフラテス川の位置 : アイン・ランドには関係ないけど、「藤森かよこのプー子通信」Blog 「ヨルダン・イスラエル旅行(2) 必見! ペトラ遺跡!」2017.9.13

ナイル川の位置 : Wikipedia「ナイル川」

干上がったユーフラテス川(イラク・Sayyed Dakhill 村) : Phys.org “In southern Iraq, drought tightens its grip” 2018.4.25

イスラエルの下水処理施設 : igdan.org

大型の空気—水変換装置と家庭用空気—水変換装置 : Water Gen.com

乳生産コントロールシステム : SCR Milking Control Systems

海水脱塩システムプラント : How Israel' s desalination technology is helping the world fight water shortage The Next Web.com 2018.May

ニコラ・プッサン画「ミディアン人に対する、ギデオンの戦い」: ニコラ・プッサン (フランス) 1625~1626

制作 ヴァチカン市国 ヴァチカン絵画館蔵

シリアは目と鼻の先 : 動画より

サダム・フセイン : Wikipedia「サッダーム・フセイン」

湾岸戦争のきっかけとなった1990年8月のクウェート侵攻 : Wikipedia「湾岸戦争」

C.S ルイス : Wikipedia「C.S ルイス」